

## シリーズ・編集部座談会 《こんな話&amp;あんな話》

「新型コロナウイルス禍」後の業界はどうなる？  
電気設備工事業界「近未来棲み分け図」を予測①

【出席者＝本紙編集部一同】

## ☆新型コロナウイルス禍後を語るのはまだ早い!?

**司会者** 今はこの話題を避けて通ることがほぼ不可能だよな。というわけで、今回も新型コロナウイルス禍絡みの話から始まるんだけど、とにかく新型コロナウイルス禍がどういう形で進み、どういう形で収束あるいは終息に向かうのかは、まだ皆目わからない。

そこで今回の座談会は、新型コロナウイルス禍が収束あるいは終息した後の業界について、いろいろ予測的に話し合いたいと思う。

**記者A** なかなか難しいテーマですよ（笑）。でも何を避けるにも避けて通れない話題であることも事実です。東日本大震災のときも、大震災以前と大震災以後とでは、いろいろな価値観やモノをみる尺度が違ってきました。比較することは困難だけど、それに匹敵するような変化は、今回も日本人の暮らしに出てくるはずだし、当然、さまざまな仕事の在り方にもかかわってくる。それだけはいえるでしょうね。

**記者C** そういう観点から一ついえるのは、働き方改革に対する考え方とか実施の方法が、以前の想定とは違った形で進むのではないかという気がします。

**記者B** 具体的には、たとえばどういうこと？

**記者C** たとえば、テレワークの推進です。以前はテレワークといっても、比較的特定の職種に偏っていたと思いますが、これからはかなり広範囲に広がっていくように思います。会社に行ってナンボと思っていた職種が、意外に自宅でもできるなど再認識されたり、通勤の苦痛から逃れられる在宅の仕事もいいなど考える層が、とくに若手社員のあいだに増えるのではないかという気がするんです。

**司会者** 通勤の機会が減って、自宅での仕事が増えると、通勤途中で新型コロナウイルスみたいな未知のウイルスにくっつけられる心配も少なくなるし（笑）。

**記者C** もちろん、電気設備工事の場合、現場に行かないと話が始まらないんですけど、これまで社内で済ますことのできていた仕事、CADの担当者や見積もり業務などは、これからは在宅でやる比率が増えていくのではないのでしょうか。

**記者D** そういう形が進むと、会社内のデスクの数も減らせて、オフィスの効率的な使い方が新たに育まれていくかもしれませんね。

**記者B** そうそう。デスクやPCも社内ではシェアする形になって、オフィスがスリム化する可能性が高くなる。そうなれば満員の通勤電車が減るし、そもそも過密ダイヤも解消されるかもしれない。あくまでも、いい方向に想像すれば、だけどね（笑）。

**記者C** 企画会議、営業会議なんかも、一堂に会してやるのが減って、普段はテレビ電話システムでいいということになるかもしれません。全国に支社をもつ職種や企業ではすでに始まっていますけど。

**司会者** 現場でやるのは仕上げの作業だけで、たとえば各種の配線作業なんかは工場で行い、あとはユニット化して現場で組み立てるだけというような形も、今より進むかもしれないな。

**記者A** なるべく他人と接しない形での作業が進めば、今後、新たなウイルスなどが発生した場合の予防策にもなるかもしれません。

**記者D** 良し悪しはともかく、現場に技術者がべったり張り付かなければいけないというような局面を、可能な限り減らしていくような方向で、現場作業の方法の見直しが進めば、就活生たちの業界に対する見方もずいぶん変わっていくかもしれません。

**記者B** 電気設備工事は「労働集約型の職種」だという「常識」が、そうなるとずいぶん変化する可能性があるよね。そう考えていけば、確かに。